

## 課題対応取組報告書

名称	城東・放出地域包括支援センター						
提出日	令和	7	年	6	月	16	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設（居場所づくり等）
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他（ ）	
活動テーマ	自立生活支援に向けた「地域包括ケア」の推進	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①相談を受けた段階で〈不良な生活環境(ゴミ屋敷)〉〈生活困窮〉等によりすでに生活が破綻しているケースがある。 ②お世話型の介護保険制度利用傾向があり、自立生活支援に繋がっていない。 ③複合的な課題が重なる困難事例ケースの増加や業務範囲を越える要望など支援者の負担が大きくなっている。	
対象	地域住民、地域役員、関係機関（行政、各サービス事業所、各医療機関等）	
地域特性	諏訪地域は、高齢者数、認知症高齢者の増加や相談も増加している。東中浜地域は高齢化率は区内平均近く、放出地域では高齢化率が20%過ぎ、今福南地域では高齢化率が40%を超えている。どの地域も数字の差はあるが、独居高齢者で身寄りなく認知症や精神疾患などから理解力の低下があり支援の介入困難ケースが散見。	
活動目標	①早期に支援介入ができるように地域ネットワーク構築 ②自立生活の理解促進を図る為の普及啓発及びインフォーマルな集い場の充実 ③困難事例に対する多職種連携やハラスメント対策による支援者の負担軽減支援	
活動内容 (具体的取組)	①早期に支援介入ができるように地域ネットワーク構築 <input type="checkbox"/> 地域での講演会 ・スーパーマーケット平和堂(職員対象) 参加人数：116名・区民向けサポーター養成講座 参加人数：78名 ・老人会において介護に関する講演会 参加人数：21名 <input type="checkbox"/> 各地域での夏祭りで認知症に関するパネル展示 ・諏訪連合：203名 ・東中浜連合：253名 ・今福連合：139名 <input type="checkbox"/> アウトリーチによる相談会 ・地域の中心となるスーパーマーケット「介護相談会」を開催。 周知啓発見学者：50名・介護相談：7名 <input type="checkbox"/> 見守り相談室との連携 ・地域見守り情報交換会開催 参加人数44名 ②自立生活の理解促進を図る為の普及啓発及びインフォーマルな集い場の充実 <input type="checkbox"/> 東中浜アクションプロジェクト「まちの保健室」に共催として参加 今年度5回開催：68名の参加 <input type="checkbox"/> 「地域高齢者の集い場支援」 認知症予防活動やスマホ教室を通じて地域高齢者のコミュニケーションの活性化に繋げた。 東中浜地域（月二回）、放出地域（月一回）において認知症予防活動を継続。 「みんなの認知症予防ゲーム」やイベントウォーキング、体操教室などを実施した。 今福地域においては地域役員の方と協同で、地域共催プログラミング教室「ナレッジラボ」 東中浜地域でも「オンラインふらっとサロン」を定期的に開催した。 ③困難事例に対する多職種連携やハラスメント対策による支援者の負担軽減支援 <input type="checkbox"/> 「高齢者福祉分野におけるカスタマーハラスメント研修会」開催 参加者63名。 <input type="checkbox"/> カスタマーハラスメント事案に対する地域ケア会議の開催 <input type="checkbox"/> 困難事例に対する多職種連携 地域ケア会議（個別ケース）：16件（課題まとめ）：3件	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①講演会及び相談会を開催して早期支援介入に向けた情報提供や地域とのネットワーク強化が図れた。 ②保健師や訪問看護事業所と連携して自立促進啓発の機会を実施。また認知症予防教室・スマホ教室・ナレッジラボなどを開催することで地域の集い場の充実が図れた。 ③困難事例に対しては行政とも連携しながら多職種で支援方針や役割分担を行うことで一定の職種に負担が偏らないように負担軽減を図ることができた。地域ケア会議を積極的に開催することで多職種連携の中で職種の特性を活かした支援検討を行っている。	
今後の課題	①早期発見による支援成功事例が少なく効果検証に至っていない。 ②地域の集い場に参加される方が固定化されており、新規の参加者が少ない。また、参加者は女性が圧倒的に多く男性の参加者は少数になっている。 ③今後も困難事例やカスタマーハラスメント事案は増加していくことが見込まれる。	